

「阿蘇の草原キッズになろう！」

- 【主催】 国立阿蘇青少年交流の家
【共催】 阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会
【後援】 熊本県教育委員会・阿蘇市教育委員会
【期間】 【秋 編】 平成23年10月11日(火)～10月12日(水) 1泊2日
【野焼き編】 ①平成24年2月16日(木)【事前学習】
②平成24年2月20日(月)【事前学習】
③平成24年2月21日(火)【事前学習】
④平成24年2月24日(金)【野焼き体験】
⑤平成24年2月27日(月)【野焼き体験】
⑥平成24年2月28日(火)【野焼き体験】
- 【実施場所】 国立阿蘇青少年交流の家及びその周辺
- 【参加者】 【秋 編】 阿蘇市立宮地小学校5年生54名、引率教諭5名、保護者等2名
阿蘇草原再生協議会会員10名、ボランティア10名
小堀牧野組合員2名 計83名
【野焼き編】 阿蘇市立坂梨小学校4、5年生33名、引率教諭3名
阿蘇市立碧水小学校5年生39名、引率教諭1名
阿蘇市立宮地小学校5年生54名、引率教諭3名
阿蘇市立古城小学校5年生11名、引率教諭1名
阿蘇市立山田小学校4年生9名、引率教諭1名
阿蘇市立乙姫小学校5年生4名、引率教諭1名
町古閑牧野組合員3名、小堀牧野組合員7名
阿蘇草原再生協議会会員13名、野焼き支援ボランティア55名
関西学院大学リンク阿蘇3名、保護者等11名 計252名
- 【講師】 【秋 編】 山本 彰子 氏

1 趣 旨

阿蘇の草原環境の現状を学ばせるとともに、草原維持活動の直接体験を通して、草原環境保全への意識を高めることができる草原環境学習プログラムを考える。

2 目 標

- 阿蘇の子どもたちに直接の体験や学習を通して、阿蘇の草原環境の現状と課題などを理解させるとともに、草原環境への興味・関心を高めることができる。
- 阿蘇草原環境学習小委員会と協働で実施し、効果的な草原環境学習プログラムの在り方を検証することができる。
- 阿蘇の子どもたちへの草原環境学習の学びの場をどのように設けていくのか、その学習の場を提供するために、小学校や関係機関



野焼き体験の様子

との連携をどのように図っていくのかなどを考え、関係機関と協議や情報交換をすることができる。



草泊まりづくりの様子

3 事業展開

(1) 研修プログラム

【秋 編】

期 日	午 前	午 後	夜
10／11(火)	○草原散策	○草泊まりづくり	○学習「草原の現状と危機」
10／12(水)	○赤牛とのふれあい体験 ・えさやり体験 ・牛の体へのネーミング ○振り返り学習		

【野焼き編】

期 日	午 前	午 後
2／16(月)		《宮地小5年生、山田小4年生》 ○学習「野焼きについて」 ○火消し棒づくり
2／20(月)	《乙姫小5年生、古城小5年生》 ○学習「野焼きについて」	
2／21(火)		《碧水小5年生、坂梨小4年生》 ○学習「野焼きについて」 ○火消し棒づくり
2／24(金)	《宮地小5年生・古城小5年生・山田小4年生》 ○学習劇「野焼きについて」 ○野焼き体験	
2／27(月)	《坂梨小4、5年生》 ○松明づくり ○野焼き体験 ○振り返り学習	
2／28(火)	《碧水小5年生、乙姫小5年生》 ○松明づくり ○野焼き体験	

(2) 目標達成のための手立て

① 学校との連携

ア 秋編では、中規模校である宮地小学校5年生と連携を図った。プログラムは、担任の先生と施設職員、草原環境学習小委員会のメンバーで、学習として取り組みたい内容を協議し、内容を決定した。学校ではできない現場での体験活動をメインとし、1日目の6時間と2日目の午前中4時間の授業時数を使って行った。泊を伴う活動であったので、夜に学習を取り入れて、昼間は野外での活動を多く取り入れた。

イ 野焼き編では、秋編に参加した学校だけでなく、広く阿蘇市内の小学校に呼びかけ、6つの小学校と連携することができた。泊を伴うのではなく、野焼き体験と事前学習の2日間に分け、事前学習は学校に出向いたり、合同で行ったりするとともに、希望に応じた内容を実施し、学校が参加しやすいように工夫した。野焼き編でも学習として位置づけ、各学校の授業時数を4～6時間使って平日に開催し、学校現場で使える効果的な草原環境学習プログラムを検証できるように工夫した。

② 阿蘇草原再生協議会との連携

ア 秋編、野焼き編ともに環境省が中心となって組織された阿蘇草原再生協議会の草原環境学習小委員会と協働で実施した。草原環境学習小委員会のワーキンググループを定期的に開催し、プログラムの内容や実施時期・場所などについて協議するとともに、役割分担をし、プログラムの中身をそれぞれの得意分野で運営するようにした。

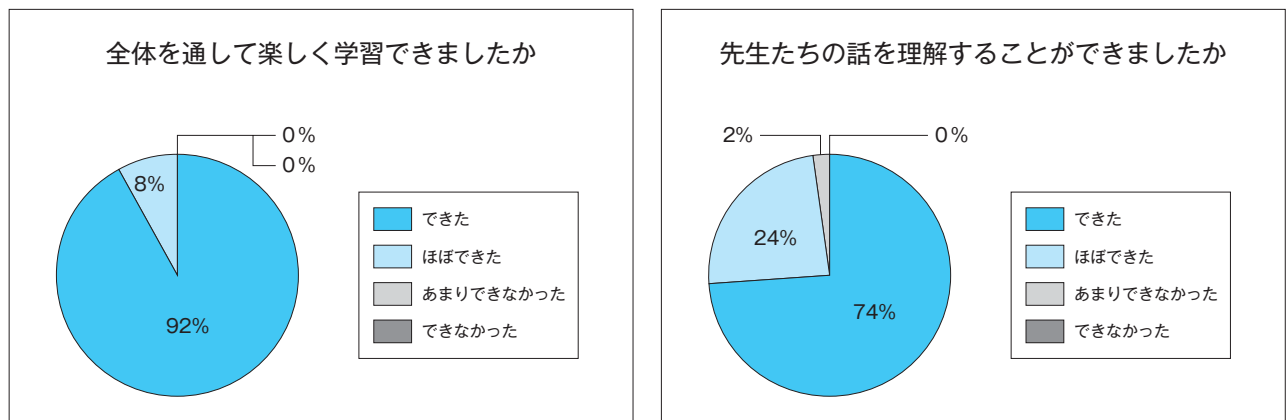
イ 秋編・野焼き編ともに、学習劇をプログラムの中に取り入れ、草原環境学習小委員会のメンバーで、草原のことを学ぶことができる劇を子どもたちに披露する場を設け、草原環境を子どもたちが理解しやすいように工夫した。

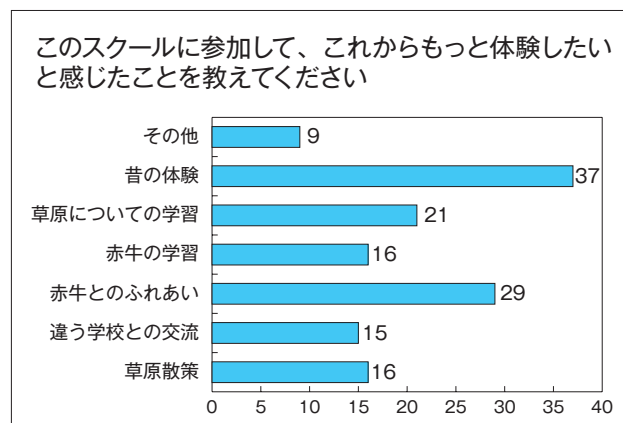
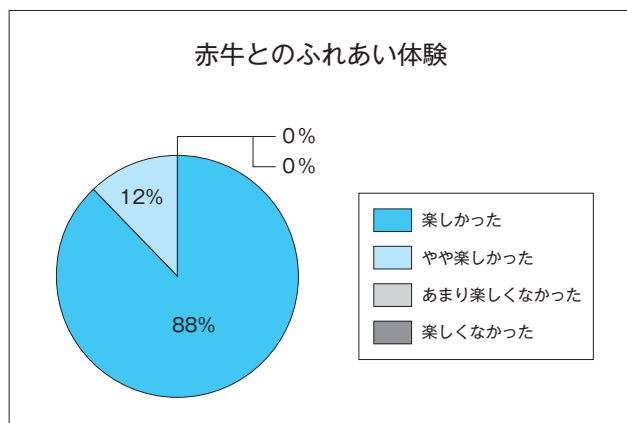
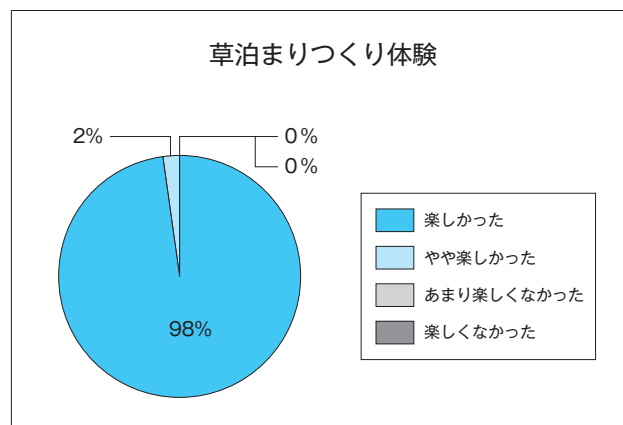
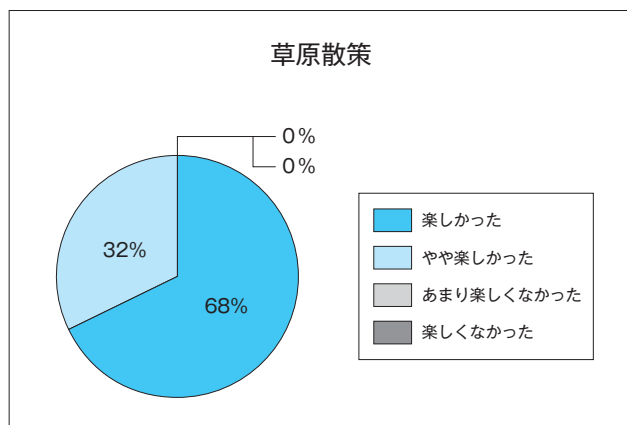


4 結果

参加者の事後アンケートの結果は、次のとおりである。

【秋編】



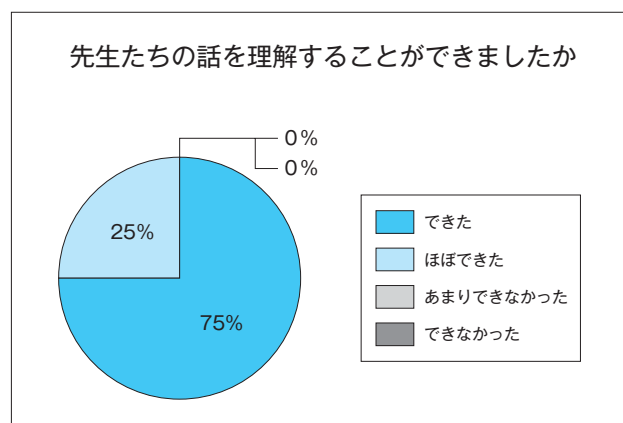
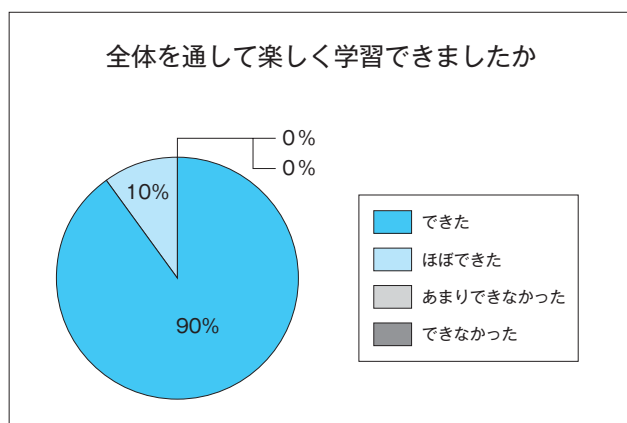


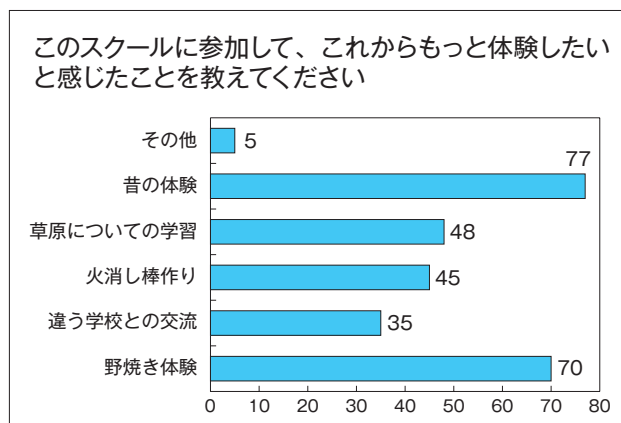
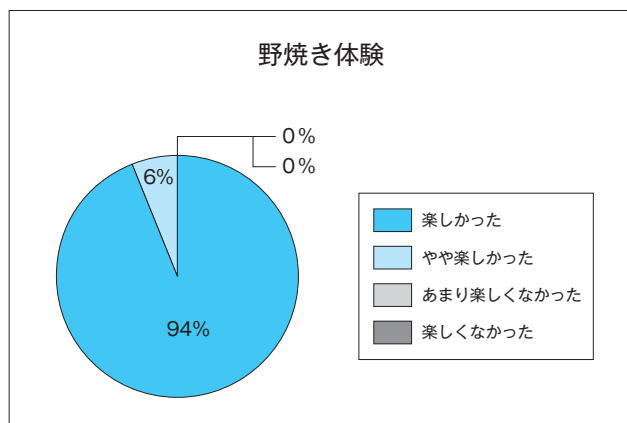
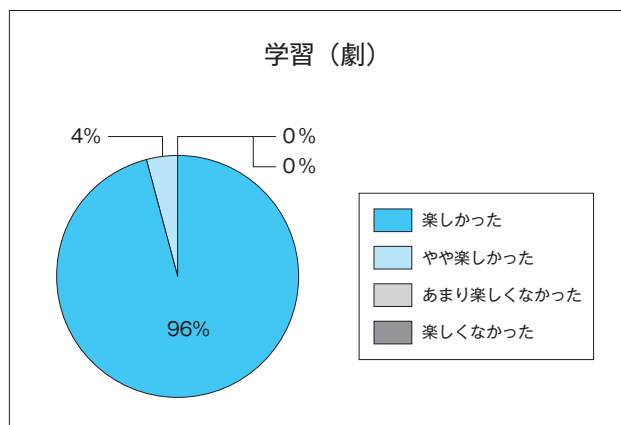
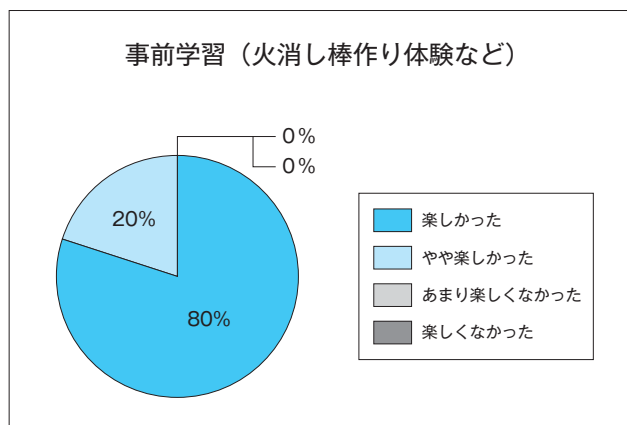
【参加者の声】

- 草泊まりつくりや赤牛とのふれあいは、あまり体験できないことなので、とても印象に残った。阿蘇ならではの体験ができたと思う。
- 阿蘇の自然には、いろいろな虫や植物がたくさんいることを知った。そして、草原が減っていることも知り、草原を大切にしたいと思った。



【野焼き編】





【参加者の声】

- お父さんが地区の野焼きに行っていて、こういうことをしているのかと初めて知った。大きくなったら、お父さんと一緒に野焼きをして草原を守っていきたい。
- 阿蘇の自然は、みんなに守られていたということを思った。
- 阿蘇の自然を守るためにボランティアの人たちや地域の人たちが力を合わせているので、阿蘇の自然を本当に大切にしたいんだと思った。



野焼き体験の様子

5 成果と課題

(1) 成果

- ① 阿蘇市郡内で最も児童数が多い宮地小学校と連携できたことで、昨年度の課題であった中規模校での事業の実施ができ、運営上の課題の検討やプログラムの立案のうえで貴重な資料を得ることができた。また、今回は、授業時数として道徳や社会・理科の時間として実施することができ、今後他の学校と連携して行う際の貴重な事案となったと考える。
- ② ボランティアとして、野焼き支援ボランティアの人材や自然体験指導者講習会受講者を取り入れることができ、草原での体験型学習を行ううえで、安全管理や活動の支援・補助を行える貴重な人材であり、戦力となった。
- ③ のベテレビ局9社と新聞3社から取材をうけ、新聞紙面だけでなく、テレビやラジオなど多くのメディアから映像などが流れ、注目を浴びることができたことは、来年度への事業の継続・発展につながると考える。
- ④ 野焼き編では、日帰り参加とし、事前学習も行うことを条件に阿蘇市内の近隣の小学校に参加を

呼びかけたところ、6校から野焼き体験への参加申し込みがあった。総合的な学習の時間等を使って「草原の学習をしたい」という学校が増えており、また、草原学習プログラムへの問い合わせも増えていることから事業の趣旨である「学校のカリキュラム化」につながる内容であったと考える。

- ⑤ 阿蘇市と連携したことで、A S O環境共生基金を活用することができ、多くの学校に野焼きを体験できる機会を提供することができた。



火消し棒作りの様子

(2) 課 題

- ① 野焼き編では、全て日帰りでの参加とした。宿泊型で実施するためには、予備日程も計画しなければならないので、学校を絞り込むか、時期をずらす必要があると考える。
- ② 野外での活動が主になるので、プログラムはかなり天候に左右されるということを子どもたちや先生に事前に十分伝えておくことと、予備日程をしっかりと確保しておく必要があると考える。
- ③ 学校に提案するためには、更に授業時数の確保のために、教科として実施できるような教科と関連したプログラムを検討していく必要があると考える。